

1. 産業に関する課題抽出	
(1) 市全体としての課題は。	
鈴木 努	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者数が減る一方従業員数が増えている事から、既存の1社の努力があり、雇用負担等も増加していると思われる。 ・雑多なイメージがある。産業施設・文化施設等が分散しており、ランドマーク的なものが少ない。 ・人口増加に特化した開発が多くされてきたが、雇用を生むための産業・工業地域の拡充が追いついていない。
生田貴之	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、吉川市が産業が盛んというイメージは薄い。また、都内に働きに出ている人やこれから転入してくる人たちにとって、吉川市がベッドタウンとして機能するのは当然のことかと思う。そのような人たちが吉川市に住むことに誇りや楽しみを感じてもらうことが大事。 ・産業と市民との間には当然のことながら壁がある。企業側はもっと自分たちを知ってもらう努力をするべきだが、市がそれをバックアップすることで、魅力ある企業を紹介しあえる(産業フェスタの継続と拡大)企業が情報を発信し開かれていくことで、新しい雇用や企業間のネットワークづくりが促進される。 各企業が持つ能力や技術をつなげて、特殊化・効率化を推し進める。メイドイン吉川。 ・また、吉川は農地が多いため長閑なイメージはあるが、実際に自然に触れ合える機会というのはいまだに多くない。農業体験や地産の作物を積極的に選んでもらえるような機会を作る。(道の駅など)
近藤 旭	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増に対応できない、市街地の少なさ、各種インフラの弱さ(学校・保育所等) ・知名度の低さ、観光地としては正直イマイチ(さくら通り?)、名物産業も少ない ・災害に対してのインフラが弱いイメージ ・市の中心部・駅周辺に賑わいが無い ・市街地や他の幹線道路からテクノポリスが孤立
柏瀬浩史	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川市は、市街化調整区域、及び農振地域が多く、勝手に、住宅・工場等を建てられない状況です。先人のお陰により、時間をかけて、やっと、美南地区の開発も決定に至りました。 ・吉川市として、今後、商・工・農、現実問題、限られた予算の中で、どの産業に力を注ぐのか。観光に力を入れるのか。全ての産業に共通する売上・雇用等の問題に力を入れるのか。はたまた、理想論的な循環型にするのか。大切な判断時期であると考えます。
太田久年	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが豊かに成長するための市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策 ・製造業や農業を始めとした地域産業の発展 ・安心で安全に暮らせるまちづくり(交通・住環境) ・職住近接への取組
関根俊和	—
程田幸秀	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増に比例して、外需の流出が進行し、内需拡大されていない。
田口政博	<ul style="list-style-type: none"> ・商業と観光で人の来る街を作る。 ・通勤時間に吉川にたくさんの人が降りてくる会社、工場のある街にする。 ・儲かる農業になれるのか。
広嶋秀樹	<ul style="list-style-type: none"> ・市政20周年行事等を通じて、吉川市の知名度や雰囲気は上昇していると感じる。今後、イベント等を通じて、市内にお金が還流する仕組みが必要と考える。
蓮見良平	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増加がみられるものの、開発地域(きよみ野、美南)に偏りがある。 ・将来的に若い世代の人口増加が見込まれるが、医療施設、保育施設の充実が図られているか。 ・法人が近隣の市への移転を検討しており、流出防止を図る政策があれば良い。

吉川市産業振興条例検討委員会 課題の抽出等

1. 産業に関する課題抽出	
(2) 自身が携わる事業における課題は。	
鈴木 努	<p>(建設業) 技術を要する職のため、急に未経験者の雇用を増やすことができないこと。また、開発による建設事業において、大企業によるものが大半を占め、中小企業が携われる機会が少ない現状と言える。</p> <p>(福祉業) 事業としての拡大は図れているが、競合相手の少なさにより数社での独占状態となっている節がある。事業者数の少なさにより利用する方の多様なニーズに応える事が難しい。</p>
生田貴之	<ul style="list-style-type: none"> ・繊維業・縫製業は国内を見渡してみると地場産業として栄え、支え合い、存続しているところが多い。吉川市には縫製業はあまり多くなく、組合等もないため横のつながりは希薄である。 ・同業種の企業と繋がるのもいいが、情報を発信し、受け取り、異業種とのつながりを増やしていくことで新しい市場を開拓できるのではないかと。また、新しい雇用の可能性も増えるはず。
近藤 旭	<ul style="list-style-type: none"> ・労働力人材が集まらない ・外を向いた人材の不足。集まるのは本当に地元のみ。もしくは埼玉郊外。 ・工場用としての用地の不足
柏瀬浩史	<ul style="list-style-type: none"> ・工専工業会を代表して出席させていただいておりますので、小松川工専地域及び工業地域の課題について、述べます。 ・現状の問題として、従業員・自社所有車両の駐車場問題。工専地域への進入路・工専地内の道路幅員等道路の整備問題(歩道を含む)。工専地域・工業地域の隣接住居の問題。雇用の確保の問題。事業の承継の問題。従業員の福利厚生面での公園等の確保。その公園には、減災倉庫の設置がしたい等々、色々あります。
太田久年	<ul style="list-style-type: none"> ・技術者不足・技術の継承及び教育
関根俊和	<ul style="list-style-type: none"> ・販路の拡大よりも、農地、農道の整備による、作業性のやりやすさを。
程田幸秀	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増による消費の拡大は、大規模店舗のみ恩恵を受けている。 ・商業の集積により、零細企業・パパママ(小規模)ストアの減少は、市内商業の空洞化を加速化させている。消費者動向は社会の趨勢からすれば生がない事と思われがちだが、それでは外需流出は妨げられない。零細商業こそ、地域と連携して、そこにしかない地域性と連動したオンリーワンを創出して、そこにしかない商売をする。もしくは、商業集積に対抗して、地域店舗を集積させて、よしかわモール等をつくる。
田口政博	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容、取扱商品、購入形態に対する対応力。 ・人材不足と人材育成。
広嶋秀樹	<ul style="list-style-type: none"> ・設備更新や新分野へ進出等、低金利を生かした前向きな投資案件の創出 ・後継者問題等、事業承継対策への取組み
蓮見良平	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅増加が考えられるが、住宅ローンの取り入れに繋がっていない。 ・他市にはない吉川市独自の制度融資等があれば良い。

吉川市産業振興条例検討委員会 課題の抽出等

2. 吉川市の進むべき方向は。	
鈴木 努	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドタウンとしての人口増加等の発展の中で、ただ住むだけではなく、吉川市にいる事で得られる利点や魅力の探求と発信が必要かと思われる。また、魅力の一つとして新規事業の誘致も必要になるかと思われる。
生田貴之	<ul style="list-style-type: none"> ・都心に近く買い物にも便利な吉川は、市民としてもベッドタウンとの認識は強いとおもうし、実際にその役割を期待されている。先にも書いた通り吉川市に住むことに誇りや楽しみを感じてもらいたい。 ・吉川市の産業の魅力を伝えるとき、あえて焦点を絞るとすれば、まずは農業ではないか。 ・美南駅東口の開発に絡めて先進的な企業の誘致の話が出ているが、その前に既存の企業を活性化させるような大胆なバックアップ施策を講じるべき。それは補助金であったり、雇用の促進であったり、ビジネスマッチングであったり。新しい工業地帯に既存の企業が優先的に入れる仕組みがあっても良いのではないか。
近藤 旭	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドタウンと雇用促進（製造業以外の大会社の誘致）の両輪を目指す ・農業の大規模化、工業化 ・吉川版SOHOバンクの推進（空き家対策） ・大学や専門学校誘致（吉川美南地区） ・吉川美南駅周辺の利便性の悪さ（駅反対口への相互利便性悪い、周辺道路が非常にわかりづらい区画）
柏瀬浩史	<ul style="list-style-type: none"> ・気持的には、農商工業の発展に伴う、地元雇用の促進。（空家住宅の利用も検討課題） ・現実には、ベッドタウン化（美南東地区も、住宅地中心???)ですか。 ・美南東地区の商業・工業地区の観光事業化が、本当にできますか？ 観光客を呼んで、吉川市にお金を落とさせる。とても素晴らしいことです。吉川市テーマパーク化？
太田久年	<ul style="list-style-type: none"> ・もうひとつインパクトある情報発信
関根俊和	<ul style="list-style-type: none"> ・跡継ぎにはあまり期待ができない状態なので、地元で就農意欲のある人材の発掘を。 ・学校給食などで地産地消の充実をはかる。
程田幸秀	<p>「しあわせの実感できるまち」・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドタウン＝住みやすい（安心・安全） ・産業団地＝雇用の増大・市内経済の活発化必要 ・農業振興＝吉川産のブランディングされた製品を開発する際には必要 ・地元雇用の拡大＝職住近接は、地元企業の雇用増・市内経済循環に必要 ・一方で、「市外の魅力的な職場で働きたい」希望を叶えられるチャンスも必要 ・多くを上げればキリがないが、何かに偏るのでなく、表裏一体のどちらをも兼ね備える「まち」であれば「しあわせ」が実感できるのかなと思います。
田口政博	<ul style="list-style-type: none"> ・面白い街、人の集まってくる街。
広嶋秀樹	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドタウンは他地域の例からも長続きしないリスクがある。県内上位の人口増加率を生かし、地元雇用が進む仕組み（子育て支援、企業支援）を考える必要がある。
蓮見良平	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川美南駅周辺はベッドタウンとしての発展。 ・それ以外の地区は基幹産業の創出、育成、援助を行う。 ・または、ハイテク農業（有機栽培等で高付加価値商品の栽培）の創出など。

吉川市産業振興条例検討委員会 課題の抽出等

3. 何に幸せを感じるか。		
	(1) 消費者の幸福感とは。	(2) 自身(事業者・生産者)の幸福感とは。
鈴木 努	<ul style="list-style-type: none"> ・必要と思う時に必要な物や環境がそばにある事。 ・市内の情報が瞬時にすべて把握できる事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な方とのつながりの中で事業が拡大していく事。その中でエンドユーザーである消費者の満足感を少しでも増加できる事こと。 ・地元企業としてもっと地域住民に知ってもらい、ニーズに対して安心安全なものを提供していくこと。
生田貴之	<ul style="list-style-type: none"> ・ここで作られている。ここだから売っている。ここにしかない。ここで買うことに意味がある。 ・そのような商品見つけたとき、購入したときに幸福感を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は縫製業なので、自分が作った商品を全く知らない人が街で着ているのを見たときに大きな幸福感を感じる。
近藤 旭	<ul style="list-style-type: none"> ・良いものをより安く早く受け取る ・ワークライフバランスの適正化 ・自身の目的達成(車を買う)の為に努力し、またそれが成果として現れること 	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員・顧客満足度の上昇⇒仕事増・利益増⇒経営者の幸福⇒経営者自身の家族の幸福、これらのバランスの平衡化
柏瀬浩史	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と一緒に、楽しく暮らせること。 ・衣食住の生活費が安価(年代によって、色々な考え方がある)で、住みやすい街。 ・高齢になっても、自分の居場所があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な人と出会い、色々な人と話をして、その人が幸福になることが、私の幸せ。 ・事業主は、孤独で、相談相手も少なく、悩みを打ち明けられる人が近くにいないことが多く、悩み事を抱えている方が多いため、話を聞いてあげたい。
太田久年	<ul style="list-style-type: none"> ・いまだけ、ここだけ 私たちだけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・役に立つ事 ・喜ばれることを喜びに
関根俊和	<ul style="list-style-type: none"> ・味安全低コストの食材を届ける。そのための作業性の向上をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅をつくるなどで、消費者と接する機会を多くつくる。観光農園なども。 米は値段が下がる一方だか、そのなかでも利益のあがる農業を目指す。
程田幸秀	<ul style="list-style-type: none"> ・購入の際の満足感と期待値 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品を通して、購入者の本質的な満足を得られたとき。頼られた時。そして、そこに地域貢献性が発生したとき。
田口政博	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住、ほしいものが手に入るという満足感。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人に必要とされる事業をしていること。
広嶋秀樹	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在的ニーズを含め、自身のニーズが満たされることと考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・取引を通じて、お客さま、従業員の双方に満足感、喜びを感じることを考える
蓮見良平	<ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉などのサービスが安価で受けられる。 ・子育てにお金がかからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上・利益の充実。 ・エンドユーザーからの感謝。

吉川市産業振興条例検討委員会 課題の抽出等

4. 消費者、自身の幸福度の達成度は。		
	(1) 達成されているか。	(2) 何が達成できていないか。
鈴木 努	・吉川市において少しずつ幸福感は増加している様に思われるが一方では、減少している地域もあるように感じられる。	・一部の住民の幸福感は上がっている様に思われるが、吉川市全体及び外部から見た状態を考えるとまだ広がりがない。
生田貴之	—	—
近藤 旭	・消費者は不明 ・自身の幸福が満たされることはきっと永遠にない	・すべてが達成できていないと思っている為、常に上を目指している。特定のことが達成できていて、達成できていないという事はない。人材確保もその一つ。いいと思う事はあるけど100%満足することはない。
柏瀬浩史	・20%ぐらいかな。	・出会いが少ない。自分から、積極的に、出て行かないのも、悪い。 ・安心、安全な、場づくりが必要。
太田久年	・地域においてはまだまだです	・自社事業における直接的な貢献 ・新事業・新分野の取組 ・地域内連携（人・技術）
関根俊和	—	・現状では後継者不足により、農地が過剰な状態で、農作業に追われているので、そこを改善していきたい。
程田幸秀	・年々、低くなっているように感じる。	・消費行動が多様化し消費者が見えずらくなり、販売者としての達成感に乏しい ・消費者にとってみれば、どこで購入しても同じ。オンリーワンを提供出来ていない。
田口政博	・達成されてはいないし、不足は多いが、満足はしている。	・たくさんあるが、ここはノーコメント。
広嶋秀樹	・途上	・お客さまの潜在的ニーズを発掘しきれていない
蓮見良平	・不十分。50%程度か。	・すみません。わかりません。